

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月15日現在

機関番号：32711

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21730427

研究課題名（和文） 韓国における高齢者と家族関係の変容に関する実証的研究

研究課題名（英文） A Study of Changes in Family Relationships Involving Elderly People in South Korea

研究代表者

金香男（KIM Hyang-nam）

フェリス学院大学・国際交流学部・准教授

研究者番号：80410059

研究成果の概要（和文）：高齢者を取り巻く社会変化と社会保障・福祉政策が進展するなかで、韓国高齢者と家族関係がどのように変容しているのかを実証的に研究した。方法としては、韓国高齢化の地域特性を把握するために、一つの地域を選び都市と農村の高齢者を対象にインタビュー調査を実施した。その結果からは、家族とくに長男による扶養や介護意識が次第に後退しており、代わって高齢者の自立や政府・社会の責任を強調する声が高まっているなど、韓国高齢者の現状と生活・福祉ニーズにおける階層と地域間の差異が明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This is a research study about changes in family relationships involving elderly people in the rapidly aging society that is contemporary South Korea. In order to understand the regional characteristics of Korean aging, interview of elderly people in the Daegu City and Gunwi-gun of Gyeongsangbuk-do were conducted. The interviews reveal declining family consciousness and decreasing financial support and care of elderly parents, especially by eldest sons. However, the study also shows that public discourse is increasingly emphasizing the independence of elderly people and the responsibilities of government and society for their welfare. Furthermore, the study shows that the lives and need for welfare service of elderly people in Korea are characterized by great disparities among different social strata and regions.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,200,000	660,000	2,860,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会学

キーワード：韓国高齢化、日韓比較、高齢者扶養・介護、家族関係、社会保障・福祉

1. 研究開始当初の背景

(1) 近年、アジアとりわけ経済成長を遂げてきた国や地域で少子高齢化が急速に進行し

ている。韓国においても日本の経験をさらに上回る速度で、高齢化が進行しており社会問題となっている。一方、従来家族によって担

われてきた高齢者扶養と介護は、急激な産業化と都市化、核家族化による家族構造の変化、老親扶養意識の低下、女性の社会進出の増加、要介護高齢者の急増などの理由から困難な状況になってきている。

(2) 韓国では1989年「国民皆医療保険」、1999年「国民皆年金」、2008年「老人長期療養保険」が実施された。介護保険制度の導入によって「介護も社会化」していくという政策方針が明らかとなった。韓国政府は、少子高齢化社会を危機と見なし、それを乗り越えるため、2005年には「低出産・高齢社会基本法」を制定した。

(3) 韓国高齢者の生活や意識に関する研究は、主に韓国と日本の政府関係機関や研究者によって行われてきたが、その多くは量的調査が主で大規模な統計データを分析したものである。一方、高齢者や家族、地域社会、行政関係者らの意識と実態を把握するためには、インタビュー調査による個々の事例など質的データの収集と分析は必要であるが、それらの研究はごくわずかである。

(4) 家族や個人の生き方がますます多様化する社会状況のなかで、個人に対する社会的・歴史的変動の影響を重視しているライフコース論の視点は、大変有用であると思われる。高齢期の家族生活が多様化するなかで、高齢者と家族との関係が過去はどうであったのか、現在はどうか、そして今後どう変化していくのかを分析することは大変重要である。韓国高齢者を対象にしたインタビュー調査では、個人（ミクロ）と社会変動（マクロ）との直接的な関わりを分析することで、20世紀の東アジア史を個人の人生の側から理解することができる。また、アジア諸社会間の比較研究のための基礎研究に寄与することを目指す。

2. 研究の目的

以上の背景をふまえて、本研究では、高齢者を取り巻く社会変化と社会保障・福祉政策が進展するなかで、韓国高齢者と家族関係がどのように変容しているのかを比較社会的観点から考察する。

具体的には、社会変動にともない現在高齢者扶養と介護問題を顕在化させる主な要因

社会・経済的变化、人口構造の変化、家族の変化を取り上げ、おもに全国的な統計資料や先行研究を用いて、日本との比較を試みる。「戦後の社会変動と高齢者扶養・介護の変化（マクロな視点）」に注目して、「韓国高齢者の特徴」を明らかにする。また、韓国高齢者の地域特性を把握するために、一つの地域（慶尚北道）を選び都市（大邱市）と農村（軍威郡）の高齢者を対象に、ライフコース（life course）に焦点を当てた半構造化インタビュー（semi-structured interview）調査を行い、「高齢者と家族関係の変容（ミクロな視点）」について明らかにする、この2点が本研究の主な目的である。

また、2008年度は韓国の高齢者と家族関係において、大変重要な年であることに注目しつつ調査を進める。

(1) 2008年1月に「戸主制度」が廃止されたことによって、高齢者の扶養と介護意識には変化がみられるのか。韓国では老親の扶養と介護は、「チプ（家）」の継承者である長男が面倒を見るという意識が強く、長男がチプの継承者でありうるのは、戸主の継承順位において優先されたからである。

(2) 老後の生活を支えるものとして社会保障制度の意味は大きい。韓国の年金制度のなかで一番規模が大きいといわれる国民年金の場合、1988年から一部実施されているが、20年以上の加入期間と60歳以上を受給資格としているため、完全老齢年金の支給は2008

年から開始される。すなわち、一部ではあるが完全老齢年金が 2008 年から支給されることによって、高齢者の扶養意識に変化はみられるのか。

(3) 日本は 2000 年に公的介護保険制度が導入されたが、韓国は 2008 年 7 月から実施されている。家族の女性が無償で担ってきた介護を社会全体で支えるという「介護の社会化」に一步踏み出したという点で、大きな意義をもつ。介護保険が 2008 年から実施されたことによって、高齢者の介護意識に変化はみられるのか、この 3 点を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 先行研究と調査方法の検討

韓国高齢化の動向や高齢者の実態、社会的な対応を把握するために、高齢者・家族・社会保障に関連する社会統計データ、既存の調査報告データや先行研究を収集し分析することで、韓国高齢者の特徴を明らかにする。対象となるのは、「韓国統計庁」「保健福祉家族部」「韓国保健社会研究院」「韓国女性政策研究院」などの関連統計の整理と分析をおこなった。

韓国の専門研究者や高齢者福祉を担当する行政機関・福祉施設に対するヒアリングを通して、高齢者や家族が直面している生活問題と政策課題を検討するとともに、調査方法についての助言を受けた。

(2) 資料収集とインタビュー予備調査

韓国語文献については、インターネットで収集できる資料はダウンロードによって収集し、現地でしか収集できないものは韓国国会図書館・中央図書館や知人の紹介を得て大学図書館などで収集し、コピーした。

本調査に向けて、高齢者が多く集まる老人福祉会館、敬老堂、公園などで、高齢者に対

する参与観察とインタビューを実施し、その結果をもとに、質問項目を作成した。

(3) 高齢者インタビュー調査、文献補足調査

2000 年度に行った質的調査にもとづき、韓国高齢者にとって高齢期はどのような意味をもち、家族との関係をどのように構築しているのか、高齢者の生活・福祉ニーズには地域差がみられるのかなどを、都市と農村高齢者に対するインタビュー調査を実施し分析することで、韓国高齢者の現状と 10 年間の変化の動向を把握した。

インタビュー調査の結果、収集の必要性が生じた文献や資料を入手し、また韓国での補足調査をおこなった。

4. 研究成果

高齢者と家族関係については、家族とくに長男による扶養や介護意識が次第に後退しており、代わって高齢者の自立や政府・社会の責任を強調する声が高まっているなど、韓国高齢者の現状と生活・福祉ニーズにおける階層と地域間の差異が明らかになった。

(1) 戸主制度の廃止後、男の子を産んで家を継承するという「父系血縁」意識は弱まっており、とくに家の継承者である長男が老親を扶養・介護するという伝統的な家族責任意識は次第に後退していた。代わって、高齢者自身の自立や政府・社会の責任を強調する声が高まっていることが明らかになった。

(2) 2008 年度から完全老齢年金が支給されているが、国民年金制度の歴史が浅く受給率も低いため、多くの高齢者は「無年金・低年金」の状況に置かれている。そのなか、低所得高齢者を対象に実施されている基礎老齢年金は、高齢者の所得保障や貧困問題の改善にある程度貢献していることが明らかになった。

また老後の生活においては、都市の場合、農村ではあまりみられなかった階層による差異が顕著であった。

(3) 介護保険の実施については、概ね肯定的に評価しつつも福祉サービスの利用にあたっての経済的負担を指摘する声が多かった。とくに、農村部の高齢者は子どもとの同居率が低いこともあって、近隣との交流は盛んであるが、都市に比べて医療施設やサービスが充実していないことから、多くの高齢者が生活不安を抱えており、高齢者の生活・福祉ニーズにおける地域間の格差が浮き彫りになった。

以上、調査結果の一部を学会報告や論文を通じておこなっており、今後さらに分析と解釈を深めて論文等の形で成果公表をおこなう予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計2件)

金香男、「高齢化の進展とその政策的対応について - 韓国の高齢女性に注目して

- 」フェリス女学院大学紀要『国際交流研究』、査読無、第13号、2011年、pp.109 - 129

金香男、「戦後の社会変動と高齢者の扶養・介護 - 日韓比較を通して - 」フェリス女学院大学紀要『国際交流研究』、査読無、第12号、2010年、pp.75 - 95

〔学会発表〕(計2件)

金香男、「急速な高齢化と所得保障 - 韓国の高齢者を中心に」、第21回日本家族社会学会大会、2011年9月11日、甲南大学

金香男、「高齢化社会韓国の高齢者の現状と福祉政策」、第10回現代韓国朝鮮学会

大会、2009年11月14日、東西大学・Pusan

〔図書〕(計4件)

金香男、「韓国高齢者の生活と所得保障」
春木育美・薛東勲編『韓国の少子高齢化と格差社会』慶應義塾大学出版部、2011年、pp.47 - 65

金香男、「韓国の人口政策と家族」伊藤公雄・春木育美・金香男編『現代韓国の家族政策』行路社、2010年、pp.79 - 99

金香男、「韓国の高齢者問題と高齢者福祉政策」伊藤公雄・春木育美・金香男編『現代韓国の家族政策』行路社、2010年、pp.121 - 138

金香男(翻訳)、金美淑「盧武鉉(ノ・ムヒョン)政権の家族政策 - 三つの法案を中心に」伊藤公雄・春木育美・金香男編『現代韓国の家族政策』行路社、2010年、pp.11 - 34

6. 研究組織

(1)研究代表者

金香男(KIM Hyang-nam)

フェリス女学院大学・国際交流学部・准教授
研究者番号：80410059

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし